

## 記者懇談会の記録

日 時	令和 4 年 12 月 22 日（木） 15：30～16：00
場 所	岩見沢市役所 3 階 会議室 3-1・3-2
記者数	5 人

### 1 岩見沢市パートナーシップ宣誓制度の開始について

（市長）

岩見沢市パートナーシップ宣誓制度の開始について、でございます。

市では、第 3 次いわみざわ男女共同参画実践プランにおきまして「性の尊重などの人権についての意識啓発」を重点項目の一つに掲げています。性の多様性を認めて、互いの個性や人権を尊重し、誰もが自らの誇りを持って、自分らしく暮らせるまちの実現を目指し、取り組みを進めてきましたが、この取り組みの一環として、岩見沢市パートナーシップ宣誓制度を令和 5 年 2 月 1 日からスタートします。

制度の概要ですが、一方、又は双方が性的マイノリティのお二人がお互いを人生のパートナーとして、これからの人生を共に歩み、日常生活において互いに助け合う関係であることを宣誓することにより、市が宣誓の事実を認めるとともに、宣誓書受領証及び受領証明カードを交付するものとなります。

この制度に法的な効力はありませんが、法律婚に規定されていないことにより、その関係性が認められずに、日常生活や様々な場面で生きづらさを抱えている性的マイノリティの方々の困難を緩和し、性の多様性への理解が促進されることを目指すものです。

宣誓の手続きですが、市民環境部市民連携室が担当します。宣誓内容の確認後、受領証等をお二人それぞれに後日交付をいたします。手続きについての詳細は、利用の手引きを別途作成し、本庁、北村、栗沢両支所、各サービスセンターに配架するほか、市のホームページでお知らせいたします。

また、制度を利用している方が、転入・転出した際に新たに宣誓することなく、継続して使用できるように、パートナーシップ制度を実施している道内の自治体との相互利用について連携を図っていきたくと考えています。

市が提供する行政サービスについて、法律等により対象者を規定している場合を除き、受領証等をお持ちの方が活用できるように準備を進めており、既に市営住宅等の入居申込・同居申請、市営の霊園・墓地の使用者資格につきましては、先日の第 4 回定例会にて条例改正を行いました。その他のサービスにつきましても、利用可能となるよう準備を進めており、順次、市ホームページ等でお知らせしてまいりたいと思います。

今後は、制度の趣旨が十分に理解され、公平かつ適切な対応が行われるよう、広報いわみざわ 1 月号や市ホームページを活用して市民や民間事業者の方への周知に努めるほか、いわみざわ

LGBT セミナーの開催などの啓発事業も実施してまいりたいと考えています。

< 質疑応答 >

(プレス空知)

制度の開始で、当事者の人たちにとっては、こういった自治体のバックアップはとても心強いのではないかと思いますので、市長のこの制度に期待するところを伺えればと思います。この制度を PR するコメントを改めてお願いします。

(市長)

やはり、その方が、その人らしく生きる権利というのはとても重要だと思うのです。個性というか、人権というか。そこはやはり尊重すべきだと思っています。私は、自由ということが一番重要なのだと思います。いろいろと制約がある中で、窮屈な思いをして生きてきた、あるいは、人生において大きな負担となってきた方々というのは確かにいらっしゃいますので。そういった方々が、この制度を利用して、特に LGBT の方ですが、自分らしく、誇りを持って生きていける、そういう地域社会の実現に向けて、岩見沢市も取り組んできたということになろうかと思っています。

(北海道新聞)

事業者への制度周知というのは、具体的には先ほど広報ですとか、市のホームページでもありましたが、それで間違いないかという確認と、自治体間の相互利用について、現在どのような形で進んでいるか教えていただけますでしょうか。

(市長)

まず、民間事業者の方への啓発、周知につきましては、商工会議所といろいろと協議を進めています。これまでも性の多様性に関するガイドラインなどもご提供して、商工会議所会員企業の方に広く周知していただくような取り組みをしておりますし、今回 2 月 1 日から制度導入するということで、改めていろいろと周知を図りながら進めていきたいと思っています。

自治体間では、道内で、札幌市、北見市、帯広市、苫小牧市、江別市、函館市で導入していますが、これは実は、連携中枢都市圏の中でもパートナーシップ宣誓制度の協議もあったのですが、ぜひ制度の導入に向けて、進めていきたいという札幌市からのお話もありましたし、相互利用についても積極的に行っていきたいというお話もありました。今はまだ正式な協議をしている訳ではありませんが、2 月 1 日に制度を導入するということを決めて、情報交換をしながら、これからしっかり協議していきたいと思っています。

(読売新聞)

今お話のあった 6 都市は既に導入済みということでよろしいでしょうか。

(市長)

導入済みですね。

**【記者懇談会後担当課に確認し、苫小牧市の運用開始が令和 5 年 1 月 4 日であることを、出席記者に訂正】**

(読売新聞)

対象者については、LGBT「Q」の方ももちろん該当になるということで。

(市長)

はい。

(読売新聞)

利用可能となる行政サービスの中に、市営住宅にパートナーの方と入居申し込みが可能となる、ということは、現状ですと、例えば男性同士、女性同士といった性的マイノリティの方は、二人での入居はできないということでしょうか。

(市長)

はい。できません。これは条例の改正が必要ですので、12月の議会で条例改正を可決していただいたということになります。

市営住宅は、収入制限がある中での家族単位、もしくは単身世帯での入居ということになりますので、これまでは不可能でしたが、この入居条件の条例改正を行ったということです。

(読売新聞)

市営墓地についても、夫婦などに使用申請が限定されていたということですね。

(市長)

相続として承継されていくことになりますので、相続権がなければ基本的には承継されないこととなりますが、パートナーシップ宣誓制度を利用いただいた方については、墓地の利用についても承継されることとなります。

(読売新聞)

利用可能となる行政サービスというのは、予定ということですが、他の導入済みの自治体としたい同じ範囲でしょうか。

(市長)

それぞれ参考にしながら今検討を進めています。

(読売新聞)

例えば6自治体が行っていないサービスを岩見沢市が新たに、ということはありませんでしょうか。

(市長)

詳細についてはこれからになりますが、あると思います。

(読売新聞)

概略で、市内にどれくらい対象となられる方がいらっしゃるか人数的に把握はされていますか。

(市長)

それはわかりません。

## 2 その他

<質疑応答>

(北海道新聞)

午前中、北村で電気自動運転バスの自動走行に市長も試乗されましたが、今のところまだ実証段階だとは思いますが、あの取り組みというのが、将来的に岩見沢のいろいろな課題において、どういった課題解決に繋がるという期待をされているか、お話を伺えますか。

(市長)

今日、私も初めて乗せてもらったのですが、非常に安全で快適に、冬でも自動走行ができるということについては、私自身も直接確認したところですが、特に、交通弱者の方ですとか、あるいは高齢者ですとか、夏冬問わず移動手段としての活用もあります。行った先での例えば行政サービスの提供といった面でも大きく活用できるのではないかと思います。

それから、当然長距離を移動するわけではないので、コミュニティ内というか、ある程度限られた範囲の中での自動走行というのは、非常に可能性があると感じました。これからいろいろと関係者の方々と意見交換しながら、提案を受けながら、あるいは提案もしながら、サービスのメニューを増やしていければと思います。

もちろん今はまだ実証の段階ですし、これから課題も出てくると思います。あの車自体は AI を積んでいて、走行に関する実証を重ねるごとに学習をしていきますので、精度はより高度になってきますし、そこにどういう行政サービス、民間サービスもそうですが、付け加えていくか、あるいはビジネスを協働していくか、そういったことについては、実装に向けていろいろな可能性が大きく広がったという認識でいます。

(北海道新聞)

ありがとうございます。別件ですが、国の話で、先日、安保の関連 3 文書の決定があって、国防に関する国の施策が大きく変わった部分があるわけですが、駐屯地の所在自治体の首長として、今回の国の方針等についてどう捉えていらっしゃるかご意見いただけますでしょうか。

(市長)

防衛 3 文書が今回閣議決定されましたが、やはり日本を取り巻く安全保障環境というのは、非常に厳しくなっているというのは私自身も感じています。特に東アジアはかなり厳しくなっている。北海道はロシアとも国境を接する訳でもありますし、今回の閣議決定の中で、道内の 2 個旅団体制については維持をするということについては、必要だったと思いますし、今後いろいろと、火力を含めた部隊再編なども具体的に検討されると思いますが、岩見沢市の部隊は施設部隊になりますから、火力方面ということではなく、ただ、自衛隊の機能をより高度化していく中で、いろいろな話が出てくると思いますので、そこは十分注視していきたいと思います。

(プレス空知)

先日行われた市議会第4回定例会について、今回、タブレットの導入や、一問一答方式も試験的に導入されて、一般質問で6名の議員さんが一問一答方式を選択されていましたし、市長も反問権を何度か使われた場面もあったと思います。一問一答方式で、同じ質問を繰り返すような場面が多かったのかなと、私自身聞いていて感じたのですが、議員さんは聞きたいことを集中して聞いたのかなと思いましたが、答弁する側の市長のお立場から、感想と言いますか、試行してみてもう思われたか伺いたいのですが。

(市長)

試行段階でしたので、制度としてまだはっきり完成形とは私自身も認識はしていませんが、反問についても、まだ本当に試行段階ですし、正直なところ、あまり反問を使わないようにしようとは思っていたのですが、ただ、やってみた感想としては、あらかじめご質問を構成されていたケースが多かったのかな、一問一答というよりは、違う意味合いの方が多かったかなという感想を持ちましたが、それはお互いにこれからではないでしょうか。

(プレス空知)

あらかじめ質問を構成されていたというのはどういったことでしょうか。

(市長)

私どもの答弁がどうであろうとも、2回目の質問はこういう質問をして、というようなポイントを、ある程度事前に構成されていたのかなという印象を受けた、ということです。実際それがどうだったかは分かりませんが。ですから、こちらもお答えする中で、「最初のご答弁でこう申し上げます」とか、そういった答弁が多かったかなという気もいたしました。

(北海道新聞)

12月、年末ということで、コロナ3年目の年、今年もコロナとの戦いという部分もあり、今年の漢字も「戦」ということでしたが、市長として今年1年間どういった年だったと受け止めていらっしゃるでしょうか。

(市長)

やはり、コロナとの共存を模索した1年だったという気はします。経済対策もそうですし。ただ、年の前半と、年の後半ではやはり少し違って来たのかなという印象はあります。よりウィズコロナに向けての社会の維持と言いますか、経済活動の維持と言いますか、そういう側面が強くなったのは事実です。その中で試行錯誤の1年だったということは間違いのないと思います。来年もしばらくはこういった状況が続くのかなという心配はしています。今年の1字を「戦」と評価する面もありますが、ウィズコロナのある程度の取り組みが定着しつつあるような、特に後半は。そういう印象は持っています。そういった意味では、どうでしょう。リスタートの年になるのではないのでしょうか。これからは特に。

(北海道新聞)

来年のコロナとの付き合い方がかなり見えてきたという印象が強いということでしょうか。

(市長)

そうですね。コロナとやはり共存していかなければならないので、どのような共存の仕方をしていくのかというのは、段々ところ、2類から5類相当へ、ですとか、いろいろと議論はありますが、エビデンスもしっかり把握しながら、やはり社会を維持していくという方向にシフトしていくのだろうと思っています。もちろん感染対策はしっかりとした上で、ですが。

(読売新聞)

先ほど議会のお話がありましたが、来年統一地方選挙ですが、定数22人を維持されたことについて市長から何かご感想があればお願いします。

(市長)

いえ、それは議会で十分議論されて、定数維持と結論されたことでしょうか。

(読売新聞)

雪の状況はいかがでしょう。岩見沢は空知の中で見るとまだ少し少ない方ですか。例年よりは。

(市長)

これまでのところ、例年と雪の降り方が少し違うなという気がします。初雪は11月の上旬にありましたが、初積雪は12月に入ってからでした。12月に入ってから、24時間で40センチを超えるドカ雪が既に2回発生していますし。ただ、12月は例年2メートルくらい降るのですが、現在は179センチですから、例年に比べると少ない状況ですけれども。ただ、これに関しては気を抜けないところがありまして、滝川が今3メートル近い大変な降雪状況で、美唄もですが、そこは十分注視しながらですね。

平年の月間降雪量でいくと、12月は2メートル程度なのですが、今年はまだ179センチ、去年が209センチ、その前年が384センチで、やはり12月の降雪量が多いというのは各自治体大きな課題として残るのだろうとは思っています。

何とか穏やかに年を越して、穏やかに冬を終えたいと思いますが、ドカ雪傾向が強くなってきていますので、降るときにはまとめて降るので、それはかなりの負荷になります。

(読売新聞)

ドカ雪傾向が強まると、交通障害に繋がりがねないというところですか。

(市長)

そうなります。どうしても、積み上がった雪の始末を早急にしなければならなくて、そうなるのと、どのタイミングで排雪作業をするかというのは、今雪の多いところはそれぞれ前倒しということで当然考えなければならぬです。そこは十分岩見沢市も構えながら進めています。

(読売新聞)

雪の降り方について、今年の特徴のような分析というのはしていらっしゃいますか。

(市長)

まだ岩見沢の場合、雪が本格的に降って1ヵ月経っていませんけれども、心配しているのはやはりドカ雪です。去年もそうだったのですが、ドカ雪が頻繁に、それも短期間に発生すると、一気に積雪が増えてまいりますので、それが非常に、市民生活と経済活動に負荷を与えますので。温暖化の影響なのかと懸念はしていますが、降り方自体が変わってきた。朝方から急に降って、未明から除雪はしているけれども、除雪が入っていないような状況の朝を迎える、ですとか、あるいは先ほど言ったとおり、24時間で40センチ位の降雪の頻度が上がってくると、やはり負荷が大きくなってきますので。

(読売新聞)

ありがとうございます。最後に、市立病院のクラスターがかなり増えているという状況ですが、今後の見通しのようなものがありませんでしたらお願いします。

(市長)

今市立病院では、ゾーニングをしっかりとしながら対応をしています。診療制限も一部かけていますが、早く解除できるように、ただ、発熱外来自体は以前のように全員を受け入れている訳ではないので、その点の負荷は随分減ったのですが、職員も家族が感染すると濃厚接触者になりますし、家族内で感染となるとそこから自分が感染者となりますので、そういった意味では非常に神経を使いながら対応しているというのが現実ですが、その中で、懸命な努力をして医療の提供については継続しながら頑張っているというのが正直な所かと思えます。

(注) この記録は、重複した言葉遣いや明らかな言い直しがあつたものなどを整理した上で作成しています。(作成：総務部秘書課広報係)